

平成29年度 大阪借星学園高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切に、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切にする教育、共生教育。

- ・常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- ・生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- ・学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- ・進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- ・保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

| 2 学校教育自己診断における結果と分析[平成29年11月 実施分] | ※学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|--|
| <p>例年通り、実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率は、昨年度と同様95%と高かったが、肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。満足度はかなり向上していると言える。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高くはなく、生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。</p> <p>回答率(回答数/在籍数)</p> <p>生徒 1年:99%(413/419) 2年:99%(446/452) 3年:99%(265/268) 合計:99%(1124/1139)</p> <p>保護者 1年:97%(405/419) 2年:92%(417/452) 3年:98%(262/268) 合計:95%(1084/1139)</p> | <p>【平成30年3月9日(金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導に関しては、押さえつけるだけではなく、考えさせるということが大切になってくるのではないかと。そうすれば、生活指導面だけではなく、学習面においても、今、何をすべきかを考え、向上していくのではないかと思います。 ・生徒たちに「自分たちが注目されている」ということを意識させていくことが重要だと考えます。 ・広報としては、公立志向が強くなっているなかで、何を打ち出していくのがポイントとなってくる。 ・教務部、生徒指導部、進路指導部が個々ではなく全体として取り組んでいくことが重要であると考えます。 ・生徒たちに目標、目的を持たせていかなければならない。 ・英検や漢字検定などの資格試験の情報提供をもう少し早くしてほしい。 ・クラブ生以外の女子生徒の挨拶がもう少しできるようになれば良い。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 本年度の重点目標 | 具体的な取り組み内容 | 評価指標 | 取組内容の自己評価 |
|------------------------------|--|---|--|
| <p>取組① 学力の充実と進路希望の実現</p> | <p>①授業を確立し、生徒たちにとって、「わかりやすい授業」をする。授業巡回を通して、学年から教科主任への連絡を密にする。また、教科会議において、授業内容と生徒たちの達成度を確認する。</p> <p>②進路実績の向上をはかり、「第一志望進路決定」の割合を増やし、満足度の高い進路実績向上を目指す。関関同立・産近甲龍などの進路実績向上、とくに関関同立については卒業生数に対する割合を前年度以上を目指す。また、未定のまま卒業する割合も5%以下に抑える。</p> | <p>・学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70%以上</p> <p>・最終進路決定率95%以上</p> | <p>①授業の確立という面では、1学期当初に比べ、全てのクラスにおいて改善されていった。しかし、学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答は67%だった。1年生が68%、2年生が63%、3年生が73%であった。昨年度は3年生の数値が一番低かったが、今年度は3年生が一番高く、2年生の数値が一番低い結果となった。次年度については、教科会議や担当者同士の連携を密にし、生徒達の理解度や進捗状況を確認していき、丁寧な指導をしていく必要がある。</p> <p>②残念ながら、校名変更以来右肩上がりであった進路実績は、関関同立については結果を残せなかった。3年間の指導の不徹底や不備に対して真摯に向きあい関係各所との連携を強化するしかないとする。次年度からは、担任の受験指導に対して、進路指導部のチェック体制を強化したい。指導プラン、実施状況、受験策定など綿密に「大学進学」をメインにしたミーティングを関係各所(担任・教科担当など)とともに連携して、生徒の実力養成を念頭に指導体制強化をはかる。最終進路決定率は92.1%にとどまった。</p> |

| | | | | |
|------------------------|------------------------|---|--|---|
| <p>取り 組み ②</p> | <p>生徒指導の 充実</p> | <p>①全教職員によるきめ細かい積極的生活指導・マナー(モラル)指導を推進し、生徒の規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。</p> | <p>①毎月の頭髮違反率15%未満 ②毎月の遅刻率3%未満 ③懲戒処分者数を昨年度より減らす ④外部からの苦情を0に近づける</p> | <p>①違反率8.0%(昨年度8.9%) ②2.7%(昨年度2.4%) ③懲戒処分者数のべ85名(昨年度102名) ④外部からの苦情36件(昨年度31件)</p> <p>次年度についても、「毎日が生徒指導」という意識を全教員が持つように生徒指導部が中心となって啓発する。ホームルーム・講習会等を通じて、生徒の規範意識・マナーの向上を図る。</p> |
| <p>取り 組み ③</p> | <p>学校組織運 営の活性化</p> | <p>①奨学金その他への対象生徒、保護者へのわかりやすい説明の徹底と丁寧な対応を行う。 ②中学校・塾への広報活動の強化。 ③女子生徒比率を高めていく。</p> | <p>・学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目での肯定的回答70%以上 前年度以上の件数を訪問する。 女子比率4割以上を確保する。</p> | <p>①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が83%であった(昨年度80%)。必要な保護者への説明や対応は丁寧に行っていると考える。今後は、奨学金の内容について保護者だけでなく生徒へも詳細に説明すべきである。 ②平成29年度全体で中学校は対前年113%、塾に対しては対前年155%と訪問件数を増やすことが出来た。訪問件数は増やすことはできたが、地域によって強弱をつけて訪問することも大切であると感じる。遠方よりも地元の減少した地域への訪問強化が必要。 ③外部相談会やオープンスクールでは、女子比率も4割を超えていた。しかし、後半の入試説明会になると3割と減少した。結果、受験者の女子比率も33%となった。早い時期には女子に興味を持ってもらっているものの、入試時期が近づくると減少傾向にあるので、オープンスクールや説明会の内容、広報物の表現方法を変えていく必要がある。</p> |